Agri 横浜
アグリ

vol.265 2025 APRIL 4

GREEN×EXPO 2027を応援しています

©Expo 2027

特集

毎日の野菜、足りていますか?

手軽に野菜を楽しもう

准組合員が提供する絶品カレー

JA果樹部が県立毛共進会で2年連続の4冠

収穫が始まったハウス栽培のアスパラガス

全国青年大会で歓喜の胴上げ

女性部・家の光大会でフードドライブを実施

農家が魅せるバルーンアート〈旬彩人〉

再生リン肥料でキャベツを試験栽培

JA横浜 Yokohama

https://ja-yokohama.or.jp/
当JAの最新情報と本誌の主なページは、ホームページでもご覧いただけます。

Instagram

JA横浜公式 「ハマッ子」直売所

明治大学・元木教授㊨からアスパラガスの出来などを聞く農家

高収益作物の導入へ アスパラを試験栽培

関連動画はコチラから

瀬谷区と旭区にまたがる上瀬谷通信施設跡地では、国際園芸博覧会の開催や将来の街づくりに向けた土地区画整理事業が進み、農地の整備も行われています。これに伴い、新たな農業経営基盤の確立を目指して市と地元農家らが連携し、高収益が見込める作物として昨年3月にアスパラガスの試験栽培に着手。今年2月に初収穫を迎えました。7日には目合わせ検討会を開き、収穫時期の管理方法を確認した他、出荷規格などのすり合わせをしました。

試験栽培には、明治大学の元木悟教授ら野菜園芸学研究室と民間企業の共同研究で生まれた栽培法「採りっきり栽培®」を採用。従来の栽培法では、定植から収穫まで丸2年かかるところ、採りっきり栽培は定植の翌年に収穫が可能。毎年株を更新するため、病害虫被害のリスクが抑えられるなど、栽培管理が容易なことも特徴です。

このアスパラガスは、消費者からの反響や売れ行きを調査するためJAが全量を買い取り、「ハマッ子」直売所瀬谷店等で販売。市内飲食店にもサンプルを提供し、食味等について評価を聞き取る予定です。

再生リン入り肥料の普及へ JA・市・全農が連携

再生リン入り肥料の開発・普及が、JA横浜、横浜市、JA全農かながわの三者の連携により進められています。市が下水汚泥から回収したリンで全農かながわが肥料を開発、JAが栽培試験や流通、組合員への啓発を促します。

リンの回収は、同市が設置した専用のプラントで令和6年3月から実施。年間の回収量は40トンで、輸入肥料が高騰するなか安定した価格での供給を実現し、担い手への経営支援を図ります。

JAは昨年、県農業技術センターの指導の下、サツマイモやキャベツなど5品目で再生リン入り肥料を用いた栽培試験を行いました。山田良雄営農技術顧問によると、肥効は従来の化成肥料と同様で、時間をかけて溶けていくク溶性のリン酸を含むため、追肥にも使えるといいます。栽培試験は今年も継続実施し、対象の作物をトマトやダイコン、サトイモなど10品目以上に拡大して効果を確認します。

山田顧問は「今後も引き続き効果的な施用について研究を深めていきたい。再生リンの活用は、肥料の安定供給のみならず海洋汚染の抑制にもつながり、効果は大きい」と話します。

試験栽培のキャベツ苗を植え付けるJA職員

米持ち寄ってフードドライブ 女性部大会・家の光大会

JA女性部は2月25日、西区みなとみらいのパシフィコ横浜国立大ホールで「第22回女性部大会・家の光大会」を開き、同部員ら1175人が交流を深めました。

大会では、生活文化活動体験発表会の入賞者5人の表彰に続き、活動体験発表の部で最優秀賞を受賞した齋藤千代子さん(都田支部)が「ふれあう女性部」と題して発表しました。また、4つの大会申し合わせ事項を採択し、令和6年度の活動を映像で振り返りました。

アトラクションでは8支部が踊りやコーラスなどを披露。工夫を凝らしたパフォーマンスに、ホールが一体となって盛り上がりました。一方、会場ロビーでは『家の光』を活用した手芸作品の展示も行われました。

今大会では、初の試みとしてフードドライブを実施。1人あたり米1合の協力を呼びかけたところ、趣旨に賛同した部員から合計187キロに上る米が寄せられました。米は公益社団法人フードバンクかながわを通じ、県内の子ども食堂などに寄贈されます。

盛り上がりを見せたアトラクションの舞台